

薩摩中央高校 インターハイで大健闘

8月5日から8日まで、愛媛県で全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会が行われ、薩摩中央高校ウエイトリフティング部6人が出場しました。女子76kg超級で見事5位に入賞した3年の下大迫彩夏さんは「顧問の金城先生の練習メニューは



きつくてできないこともありましたが、指摘されたことをできるまで練習し、積み重ねてきたことが結果につながりました」と話しました。また、金城聖丸教諭は「競技のためだけでなく、人間として成長するためにウエイトリフティングを通じて自信を付けてほしいです。日常での心掛けや練習に向き合う姿勢

など、努力を常に意識するよう伝えていきます。地域とつながりを持ち、地域から愛される部であってほしいです」と話しました。

10月の国民体育大会や11月の全日本女子選抜大会に向け、生徒の挑戦はこれからも続きます。



5位に入賞した下大迫さん(右)

トレーニングに励む下大迫さん



クラリネット奏者 故郷で生演奏

9月17日、宮之城文化センターでクラリネット奏者4人グループの四足歩行クラリネットアンサンブルのコンサートがあり、吹奏楽の定番曲「宝島」などの演奏が行われました。同グループには本町出身の園田知潤さんが所属しており、中学生など地元の人と一緒に演奏するミニステージも行われました。



地元で生の演奏を届けたい、地元の人と共演したいと想い出のホールでコンサートを行った園田さん(中央左)

小向井さん 絵で伝える昔話



8月23日、鶴田中央公民館で、はがき絵作家の小向井一成さんが昔話の紙芝居を行いました。小向井さんは故郷の泊野地区の懐かしい風景を描いたり、本町の昔話を伝えたりしており、今月号の表紙も小向井さんの作品です。鶴田小学校4年の大野葵衣さんは「さつま町にいっぱい昔話があると知らなかったです。故郷を大切にしたいです」と話しました。



手作りの紙芝居で妖怪の昔話を紹介

二渡太鼓踊保存会 伝統の踊り奉納

8月28日、二渡地区にある南方神社で郷土芸能奉納祭が行われました。新型コロナウイルス感染症の流行で踊り手が集まりにくい状況の中、伝統を絶やさないという想いから規模を縮小して実施。二渡太鼓踊保存会会長の富永和昭さんは「地域の皆さんの伝統を守るという強い想いのおかげで開催できました。伝統を次世代に伝えられるよう頑張ります」と話しました。



鐘や太鼓を鳴らしながら舞う踊り手

薩摩中央高校に中学生が体験入学

8月23日、薩摩中央高校で中学生一日体験入学が行われ、町内外の中学3年生約60人が参加しました。生徒会が学校紹介を行い、中学生は各学科の特色ある学びや各部活動の練習などを体験。生物生産科を体験に参加した中学生は「牛のブラッシングは初めてでした。牛の体は筋肉質で毛もサラサラしていて驚きました。第一志望校で良い体験ができました」と話しました。



初めてのブラッシングに緊張している様子の中学生

外川内さん 陸上競技大会で優勝

7月10日、鹿児島市で南日本小学生陸上競技大会が行われ、盈進アスリートクラブ所属で盈進小学校6年の外川内新さんが男子800mに出場。2分24秒64で優勝しました。外川内さんは「途中は苦しかったです。練習の成果が出せたと思います。次の大会に向けてより一層練習を頑張ります」と話しました。



練習の成果を発揮し優勝に輝いた外川内さん(右)



左から町高齢者クラブ連合会の下大迫次男会長、上野町長、大園会長、町高齢者クラブ連合会の宮原清事務局長

角郷老人クラブ 仲間づくりで表彰

9月2日、鹿児島市でゆめ・ときめき鹿児島ねりん大会が行われ、角郷老人クラブが優良団体賞の仲間づくり部門で表彰されました。加入促進のために声掛けを行い、1年間で11人の加入を達成した功績が認められたもので、大園守光会長は「加入された方々と力を合わせて、楽しいクラブ活動にしていきたいです。クラブがますます発展するように頑張っていきます」と話しました。